

海外トピックス

静岡県海外駐在員報告

2025.

7

静岡県企画部地域外交課



UCLG ASPAC 執行理事会に参加

東南アジア

世界都市自治体連合（UCLG）に加盟（フィリピン）
シンガポールにおける抹茶人気（シンガポール）

中国

静岡県訪問団が浙江省を訪問、最先端スタートアップとの連携を目指す
夏だ！ビールだ！青島へ飛ばう！！ 静岡ー青島線が7月17日に新規就航！

韓国

日韓国交正常化60周年
想像を上回る文化交流

台湾

FOOD TAIPEI 2025 に出展
台湾の祝日が追加 年間計16日に

東南アジア駐在員報告

駐在員：村川 未帆

行政

世界都市自治体連合（UCLG）に加盟（フィリピン）

6月10～11日、フィリピン・ボラカイ島で開催された世界都市自治体連合（UCLG）・アジア太平洋支部（ASPAC）の執行理事会に参加した。

UCLGは世界最大の地方自治体連合組織で、140以上の国・地域から1,000以上の都市が加盟し、地方自治体の能力向上、会員同士の交流促進等を図るため、国際会議や研修等を開催している。今回の執行理事会で、日本の都道府県として初めて本県のUCLG加盟が承認され、ASPACの会長から会員証明書を受領した。

執行理事会開催に併せて実施される各種パネルセッション、視察、交流会にも参加したが、会員同士が積極的に交流をしており、本県も挨拶回りをする中で、各自治体の取組の紹介、国際イベントの案内、自治体間交流や産業人材紹介の提案等を受けた。また、UCLG・ASPACは、国連やその他国際会議でも政治的に自治体を代表して意見・提言を行っているが、事務局から、8月開催のASEAN会議に本県もネットワーキングのために参加してはどうかとの打診もいただいた。2日間の執行理事会等の参加により、UCLG加盟が、各国自治体や国際機関とのネットワーキングの場として、いかに有用であるかということを実感した。

今後はUCLGを通じたネットワークを活用し、会員自治体との連携を図るとともに、本県の情報発信に取り組みたい。



経済

シンガポールにおける抹茶人気（シンガポール）

2024年、日本茶の輸出額は過去最高を記録した。欧米、東南アジアにおける健康志向や日本食への関心の高まり等を背景に、輸出額全体の75%を占める抹茶を含む粉末状の緑茶の輸出が拡大したことが要因だという。

ここシンガポールでも抹茶の人気は非常に高い。抹茶は「Matcha」表記でそのまま通じ、日系抹茶専門カフェが何軒もあり、抹茶のワークショップを実施する店まである。ローカルカフェでも抹茶ラテのようなドリンクから抹茶スイーツまで、幅広く抹茶を使ったメニューが見られ、抹茶人気が窺える。

シンガポール人に静岡茶をPRすると、皆、いかに「抹茶」が好きか熱弁してくれる。多くのシンガポール人にとっての日本茶とは、煎茶ではなく、もはや「抹茶」なのだ。特に健康志向が高い人は、カフェで飲むだけでなく、自宅用に抹茶を買い、日常で抹茶を飲むという。本格的に茶せんを購入して点てる人もいるが、多くが電動ミルクフォーマーやマドラーを使い、ミルクやお湯に抹茶を混ぜて気軽に飲んでいる。企業や観光関係者の問い合わせで、抹茶や茶道具の仕入れ先、抹茶や抹茶スイーツを堪能できる静岡の観光スポットを紹介することも多く、抹茶ビジネスのマーケットの大きさを感じている。

現在、シンガポールで見かける名のついた抹茶の多くが京都・宇治産だ。静岡抹茶のプレゼンスを向上させるべく、抹茶カフェ等に出向き、抹茶の飲み方・使い方を提案しながら積極的に静岡抹茶の紹介ができたと思う。



中国駐在員報告

駐在員：石川 祐介

経 済

静岡県訪問団が浙江省を訪問、最先端スタートアップとの連携を目指す

6月2～5日、鈴木知事を団長とする静岡県訪問団が上海市・浙江省を訪問した。現地では、浙江省トップの王浩（おう・こう）書記と面会し関係を構築したほか、在上海日本国総領事館の岡田総領事・大使との日中関係についての意見交換や、中国東方航空へのトップセールス実施など、充実した滞在となった。

経済発展が著しい現地を視察した中でも、特筆すべきは現地スタートアップの技術力だ。アリババを筆頭に次々と新たな企業が生まれる浙江省では、義手・義足を製造する『浙江強脳科技有限公司』を訪問。指や足を動かそうと神経が発する微弱な電流をセンサーが感知し、頭で思い描いたとおり人工の指や膝を動かす技術をユーザーでもある社員が実演し、流暢なピアノ演奏や自然に歩行する姿に、参加者からは驚きの声があがった。

在上海日本国総領事館は、「中国は日本人がイメージする製造・消費大国ではなく、もはやイノベーション大国だ」と強調する。自動車メーカーほか日本企業は、「変化のスピードが速く、最新技術が即時に社会実装される中国市場で勝つことが、世界での競争力につながる」とし、「日本企業が世界で勝ち抜くためのトレーニングセンター」と位置づけている。

今回の訪問では、県・静岡大学・静岡県立大学と浙江大学による「大学発スタートアップ交流・育成等に係る協力に関する覚書」を調印した。浙江省との新たな交流が本県の教育・産業分野の競争力強化に繋がるよう、事務所でも皆様の取組をサポートしていく。



鈴木知事と王浩浙江省書記の面会



行 政

夏だ！ビールだ！青島へ飛ぼう!! 静岡－青島線が7月17日に新規就航！

7月17日から富士山静岡空港－青島膠東空港線が新たに就航する。

青島市は、現地では「ビジネスとリゾートが融合する都市」と評価されている。経済分野では、ハイアール（白物家電世界シェア1位）が本社を置くほか、中国有数の港湾機能を活かした物流業・水産加工業も盛んである。また観光分野では、八大関などドイツ統治時代の建造物が並ぶ異国情緒ある風景が魅力で、中国への出張者が一度は味わう「青島ビール」も有名だ。

7月18日～8月16日には、中国最大級のビール祭りである「青島国際ビール節」が開催される。地元の名物料理である海鮮や鍋貼（焼き餃子）とともに、ぜひ中国の夏を楽しんで頂きたい。



青島ビールの看板が並ぶ市街地

韓国駐在員報告

駐在員：石ヶ谷 彰英

政治

日韓国交正常化 60 周年

今年は 1965 年に日韓基本条約が締結されて 60 周年にあたる。

「両手を携え、より良い未来へ」をキャッチフレーズに、両国で様々な記念行事が予定されているが、去る 6 月 16 日にはソウル市内のホテルで在大韓民国日本国大使館の主催による記念行事が開催された。「日韓国交正常化 60 周年記念レセプション」と題されたこの行事には、韓国政府関係者を始め、各界から日本や日韓関係にゆかりのある方々、また、韓国駐在の各国外交官など約千人が出席した。

水嶋光一駐大韓民国日本国特命全権大使による冒頭あいさつに続き、G7 首脳会議のためカナダに向かった李在明（イ・ジェミョン）大統領からのビデオメッセージが流された。

また、訪韓した長島昭久内閣総理大臣補佐官及び韓国政府代表として金珍我（キム・ジナ）韓国外交部第二次官からの祝辞が述べられたあと、鏡開きに続けての乾杯が行われた。

今回の記念行事にあたり、日本の地方自治体の各ソウル事務所は会場内のブースで地域の魅力を PR する機会を得た。静岡県ソウル事務所では日本の象徴とも言われる「富士山」をメインに、仁川国際空港から直行便で行ける本県の魅力を精一杯アピールした。

特に今年から新たな規制が加わる富士登山に関する日韓両言語のパンフを用意し、静岡県側の 3 つの登山口を紹介しながら、規制の内容を説明したところ、富士登山の経験があるという方から「（前は吉田口だったけど）今回は是非静岡側から」との感想をいただいた。

乾杯から少し時間を置いて行われた第 2 部のステージプログラムで、両国のパフォーマーによる音楽演奏や歌唱が披露された後、約 2 時間にわたるレセプションは幕を閉じた。本県の観光パンフレットやグッズ類を全て配り終え、軽やかな気持ちで会場を後にした。

文化

想像を上回る文化交流

「日韓国交正常化 60 周年記念レセプション」に参加して改めて強く感じたことは、両国の文化交流がますます進んでいることだ。第 2 部の合間に人気俳優やアイドルグループのメッセージが放映された。有名な K-POP グループ 2 組が出演したが、ともに日本のメンバーがいて活躍している。

第 2 部後半には、両国の十代の歌手が、相手国側の歌（日本の演歌と韓国のトロット）を相互に披露したが、1996 年から 2 年間ソウルに住んでいたことがある筆者は隔世の感と驚きを禁じえなかった。二人の歌唱力にも驚いたのだが、約 30 年前までは公の場で日本語の曲が流れることも、日本の歌手がステージに立つことも考えられなかったからである。

1965 年の国交正常化後も、韓国では自国文化の保護等を理由に日本の大衆文化を法令で規制していた。1998 年に就任した金大中（キム・デジュン）大統領の時代に、日本映画の一般劇場における封切が行われてから、段階的に開放が進み現在の全面開放に至るのだが、その後の約 20 年間の状況を見ると、両国の文化交流は K-POP ブームに見られるとおり、韓国からの一方通行が主で、相互に交わり合うという感覚は非常に少なかったことは否めない。

だが今、K-POP のグループに日本人が自然に加わり、日本の若者が韓国の歌を歌いこなす時代が訪れている。そして日本の人気アーティストが続々と韓国でコンサートを行っている。あえて月並みの言い方だが、今後に大いに期待したい。きっと想像を上回ることだろう。

台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

行政

FOOD TAIPEI 2025 に出展

6月25日～6月28日、弊所は「2025 台北国際食品展覧會」（通称：FOOD TAIPEI 2025）に静岡県ブースを出展した。

同イベントは台湾貿易センター（TAITRA）が主催している台湾最大規模の食品見本市だ。今年度は、33カ国・地域から1,700の事業者が参加し、約5万人の来場者で賑わった。

弊所は、台湾の大手電機メーカー「東元電機」の飲食部門である「東元餐飲集團」傘下の「安心食品」ブース内にブースを設け、お茶・フルーツ加工品・調味料・アルコール飲料などの計45品目を出品した。県内事業者等による商品販売コーナーを設けたり、安心食品が主催する商談会に参加したりと、静岡県産品を多方面からPRした。本県ブースに来られたバイヤーの方からは、抹茶・碾茶・粉末茶などに関する問い合わせが多かった。本県の商品に興味を持ってくれた方々には、今後、さらなるアプローチを予定している。今回の出展を、ひとつでも多くの商談につなげていきたい。

会場内には台湾農業部が「台湾パビリオン」を設置しており、オープニングセレモニーには陳駿季（ちんしゅんき）農業部長が出席した。陳部長によると、昨今の日本のコメ不足を受けて、台湾米の日本への輸出が加速されているとのこと。これまでの対日輸出量は毎年平均3,500トン程度だったが、今年はすでに8,700トンが輸出されているということだった。

台湾の食のトレンドを肌で感じることができる同イベントは、毎年6月下旬に実施されている。弊所では、現地に事務所がある強みを活かし、今後も同イベントへの出展や台湾現地の事業者との連携等を通じて、県内事業者の台湾への販路拡大をサポートしていく所存だ。台湾への食品輸出や販路拡大を検討されている事業者の方がいらしたら、お気軽に弊所にご相談いただきたい。



静岡ブースでのPR

社会・時事

台湾の祝日が追加 年間計16日に

5月28日、台湾総統府が「記念日及び祝日実施条例」改正の総統令を公布した。これに伴い、祝日が4日増えることになった。また、これまでは労働者のみの祝日（公務員などは通常出勤）とされていた5月1日も、今後は正式に祝日となる。今回新たに追加されることになった祝日は「5月1日：労働節」「9月28日：教師節（孔子誕生日）」「10月25日：光復節」「12月25日：行憲記念日」「旧暦12月30日：大晦日の前日」の5つだ。これまでの祝日日数は11日だったが、今回の改正によって、日本と同じ16日となる。

興味深いのは、「来年から」ではなく「今年から」施行されること。つまり年度の途中で、突然祝日が増えたことになる。特に9月下旬から10月下旬にかけては3連休が4回も続くため、ネット上では「旅行に行くならこのタイミングがおすすめ！」などの指南が出回っている。日本に旅行に来る方も増えるだろう。観光業のみなさん、是非とも万全なご準備を。

参考：<https://www.dgpa.gov.tw/information?uid=30&pid=12572>（行政院人事行政総処）

静岡県 海外駐在員事務所

●東南アジア駐在員事務所（シンガポール）

住所	12 Eu Tong Sen Street, #04-168 The Central(S0H02), Singapore 059819		
電話	+65-6221-0432	FAX	+65-6221-0477
URL	http://www.shizuoka.sg/		
E-mail	fujinokuni@shizuoka.sg		

●中国駐在員事務所（上海）

住所	上海市長寧区延安西路 2201 号 国際貿易中心 2611 室		
電話	+86-21-6275-0909	FAX	+86-21-6275-8856
URL	http://www.shizuokash.com		
E-mail	ilfjs@shizuokash.com		

●韓国駐在員事務所（ソウル）

住所	韓国ソウル特別市中区武橋路 21 The Exchange Seoul ビル 6 階		
電話	+82-2-777-1835	FAX	+82-2-777-1837
URL	http://shizuokaseoul.com/ https://blog.naver.com/goshizuoka		
E-mail	shizuoka@shizuokaseoul.com		

●台湾駐在員事務所（台北）

住所	台北市中山区南京東路二段 137 号 連邦商業ビル 13 階		
電話	+886-2-2508-1515	FAX	+886-2-2503-5303
URL	http://www.shizuoka.org.tw/		
E-mail	shizuoka.tw@gmail.com		

<日本での連絡先>

静岡県 企画部 地域外交課

住所：静岡市葵区追手町 9-6

電話：054-221-2572 F A X：054-221-2542

E-mail：kokusai@pref.shizuoka.lg.jp